


平成20年度

京都市交通事業事務事業評価

(平成19年度事業)

平成20年11月

京都市交通局

## はじめに

京都市の交通事業は、きめ細やかに張り巡らせた市バス路線と市域を東西南北に貫く大動脈である地下鉄とのネットワークにより、市民生活に欠くことのできない身近な公共交通機関として、また、観光客の安価で手ごろな交通手段として、多様な都市活動を支えるとともに、高齢者や障害のある方への対応、地球環境への配慮など、人や環境にやさしい交通機関としてもその重要性が増しています。

一方、人口減少社会の到来や交通手段の多様化により、お客様の大幅な伸びが期待できないなど、交通事業を取り巻く経営環境は全国的に見ても非常に厳しい状況にあります。このような中、交通局では「経済性の発揮」と「公共の福祉の増進」という公営企業の基本原則をしっかりと踏まえつつ、「京都市基本計画」に掲げる「歩くまち・京都」の実現と将来にわたって市民の足を確保するという公営交通の責務を果たすため、「京都市交通事業ルネッサンスプラン」（計画期間：平成15年度～平成20年度）や国制度を活用した「京都市地下鉄事業経営健全化計画」（計画期間：平成16年度～平成25年度）を策定し、その具体的な行動計画である「京都市交通事業第2次アクションプログラム」に基づき、「すべてはお客様のために」を合言葉に、一層の経営体質の強化と市バス・地下鉄の利用促進に取り組んでいます。

この「京都市交通事業事務事業評価」は、そうした交通局の取り組んでいる事業の進捗よく状況を管理し、サービス改善と事業の効率化を図るとともに、市民の皆様やお客様への説明責任を果たすことを目的として、実施しているものです。

平成19年度の経営状況の総括的な評価と、第2次アクションプログラムに掲げた各個別の事業を対象に、目標とそれに対する実績をもとに達成度の評価を行いました。

## 目 次

### I 平成19年度の経営状況

- 1 市バス事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
- 2 地下鉄事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

### II 事務事業評価

- 1 事務事業評価の実施について・・・・・・・・・・・・・・・・5
- 2 評価結果一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
- 3 事務事業評価の実施結果・・・・・・・・・・・・・・・・7

# I 平成19年度の経営状況

## 1 市バス事業

市民生活の大切な足である市バス路線のネットワークを守っていくために、「京都市交通事業ルネッサンスプラン」（以下「ルネッサンスプラン」という。）に基づき、黒字経営体質への転換を着実に進め、平成21年度での経常収支の均衡を経営目標として、取組を進めています。

平成19年度は、主な成果として、

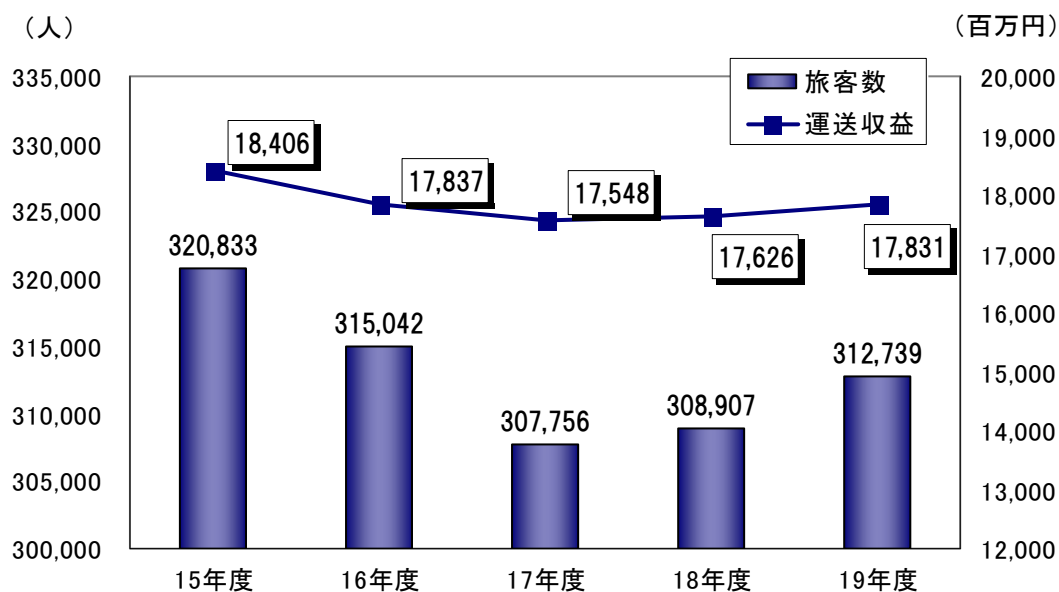
### ① 前年度を上回るお客様の数と運送収益を上げることができました。

お客様サービスの向上と増収・増客の取組では、より積極的にお客様に市バスをご利用していただくため、観光シーズンにおける観光系統の増便や通勤・通学輸送の増強などを行ったほか、平成20年1月の地下鉄東西線の延伸に際しては、市バス・地下鉄のネットワークを生かすため、太秦天神川駅への接続を中心とした市バス路線の再編を実施しました。（→10 ページ 市バス路線・ダイヤの改善）

また、よりご利用しやすい市バスを目指して、バスロケーションシステムの増設（→12 ページ バス待ち環境の改善）やノンステップバスの導入拡大（→29 ページ 市バス・地下鉄施設のバリアフリー化の推進）、インターネットを使った経路検索サービス「洛ナビ」の導入（→13 ページ ITの活用による情報提供）などを行いました。

景気の回復や入洛観光客の増加を背景としたこれらの増客・増収の取組を行ったことにより、お客様の数、運送収益とも、前年度を上回る実績を上げることができました。

### 【お客様の数（一日平均）と運送収益の推移】

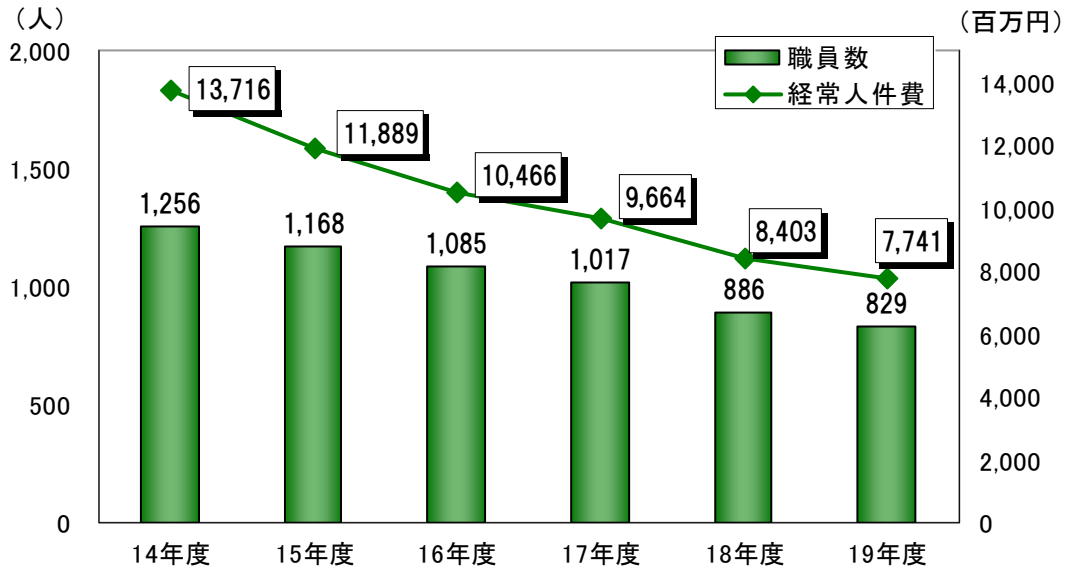


② 5年連続で黒字を達成しました。

経営体質を強化するための取組では、各種手当の廃止・縮減や新たな給料表の導入効果による平均給与の低下、事業規模の2分の1に相当する「管理の受委託」(※)の実施などにより、経常人件費の大幅な削減を図ることができました。これにより、職員数については、平成14年度の1,256人から19年度には829人へと、5年間で427人削減し、人件費についても13,716百万円から7,741百万円へと、5,975百万円の削減を図ることができました。(→20ページ 総人件費の抑制)

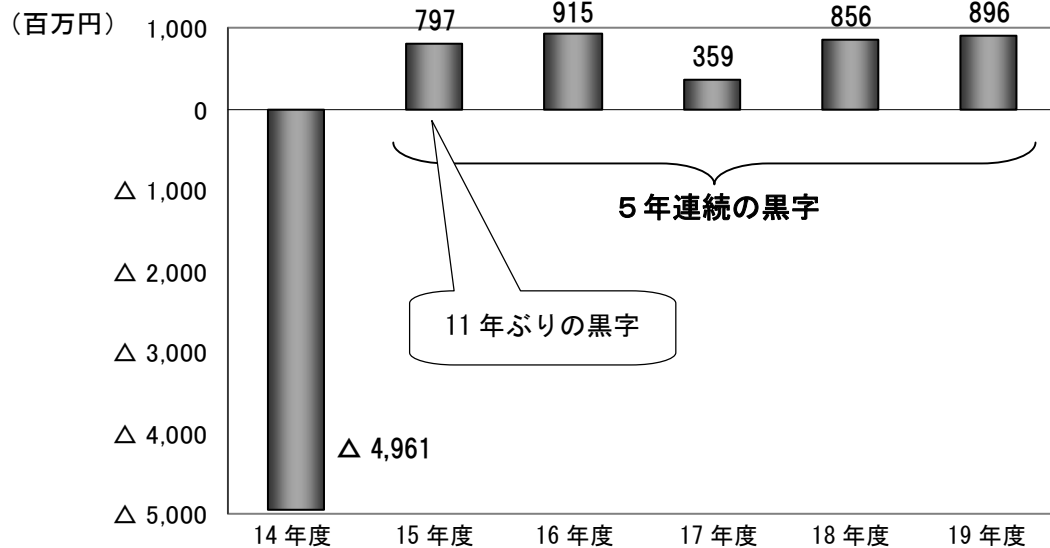
※管理の受委託とは→交通局が運賃、ダイヤ、路線などに責任を持ちながら、バスの運転、営業所の管理、車両の整備を民間バス事業者に委託するもの

【職員数と人件費の推移】



このような健全化努力により、平成19年度決算における経常収支は、約9億円の黒字を達成し、平成15年度に11年振りに黒字を計上して以降、5年連続となる黒字決算とすることができました。

【経常収支の状況】



## 2 地下鉄事業

定時性にすぐれ、環境にもやさしい市民の財産である地下鉄を、将来にわたって安定的に経営していくため、平成16年3月に策定した「京都市地下鉄事業経営健全化計画」（以下「地下鉄事業経営健全化計画」という。）に基づき、平成23年度に現金収支を黒字化（運賃収入で運営費と建設費返済金の利子分をまかなえる状況）することを経営目標に、取組を進めています。

平成19年度は、主な成果として、

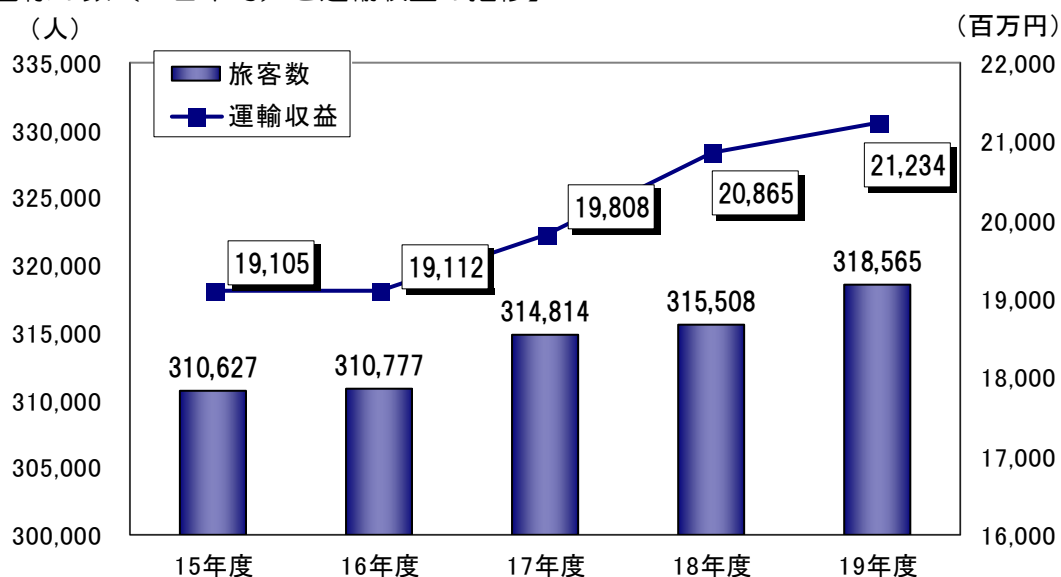
### ① 前年度を上回るお客様の数と運輸収益を上げることができました。

景気の回復や入浴観光客の増加を背景として、積極的な増収・増客に取り組んだことや、東西線二条～太秦天神川間の延伸を当初の予定より2ヵ月早い平成20年1月に開通できた（→27 ページ 地下鉄の延伸）こと、また、延伸開通を契機とした新たな企画乗車券の発売や京阪京津線車両の太秦天神川駅までの乗り入れ延長の実施などでお客様の利便性向上を図ったことなどにより、お客様の数、運輸収益とも、前年度を上回る実績を上げることができました。

増収・増客の取組としては、よりスムーズに鉄道をご利用いただけるよう、平成19年4月から地下鉄全線でP i T a P aなどのICカード乗車券の利用サービスを開始する（→17 ページ 運賃制度の改善）とともに、本市独自のクレジット機能付きICカード「京都ぷらす O S A K A P i T a P a」を発行し、商店街などと連携した地下鉄の利用促進に取り組みました。

さらに、増収を図る様々な取組として、地下鉄駅の空きスペースを活用した「駅ナカビジネス」（→15 ページ 地下鉄の増収・増客対策の実施）では、京都駅に女性向け雑貨店「K i T T o」を、太秦天神川駅や山科駅に現金自動預払機（A T M）を設置するなど、拡充を図りました。また、広告料収入では、地下鉄全駅へ広告枠付A E D（自動体外式除細動器）を設置するなど、新たな媒体を導入し、増収を図りました。（→16 ページ 広告料収入増対策の実施）

【お客様の数（一日平均）と運輸収益の推移】

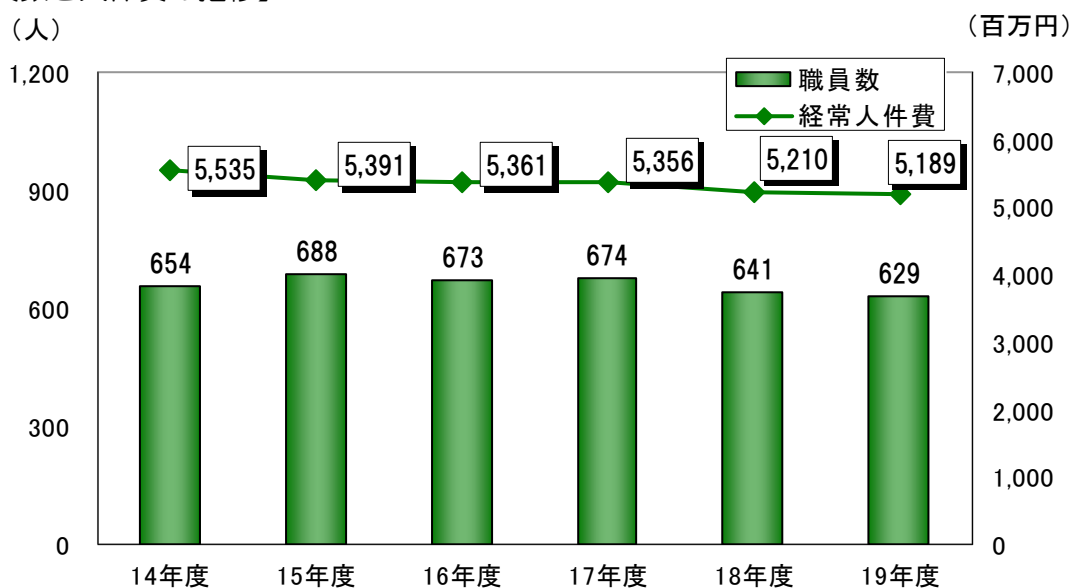


## ② 収支の改善に努めました。

経営体質を強化する取組では、引き続き、人件費や経費の削減に努めました。新たな取組としては、平成19年4月から駅職員業務の一部民間委託化を5駅で開始し、平成20年1月からは、東西線延伸に伴い新駅2駅で、更に4月からは3駅で実施（→23ページ 地下鉄事業の長期収支改善）しています。

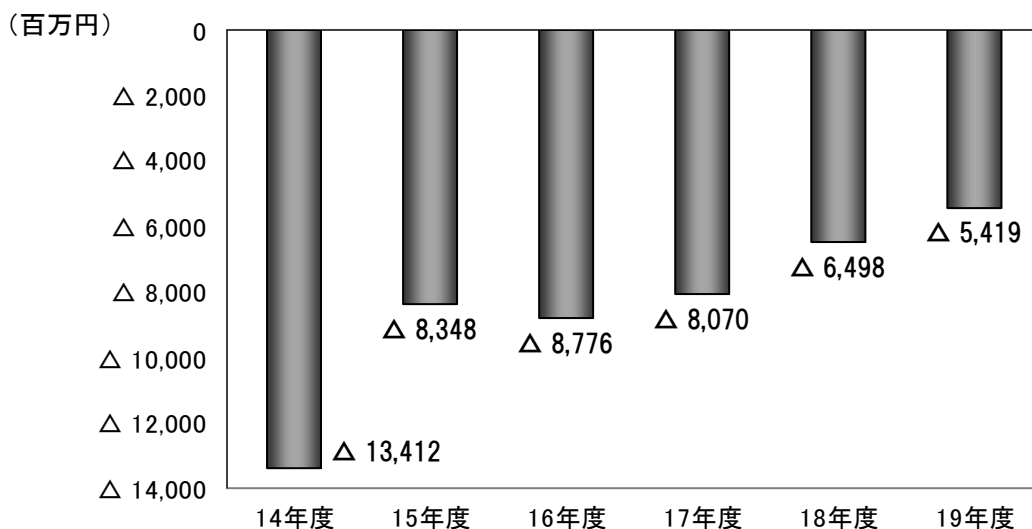
こうした取組の実施により、平成14年度から19年度までの間に、東西線延伸による増員要素がある中で、職員数を25人削減し、人件費についても346百万円の削減を図ることができました。（→20ページ 総人件費の抑制）

### 【職員数と人件費の推移】



こうした健全化努力に加え、一般会計からの支援として、地下鉄事業経営健全化計画に基づき健全化出資金約67億円を受け、平成19年度決算における経常収支は、前年度より約4億円の改善、現金収支（償却前損益）についても、約11億円改善することができました。（→23ページ 地下鉄事業の長期収支改善）

### 【現金収支（償却前損益）の状況】



## II 事務事業評価

### 1 事務事業評価の実施について

平成18年6月に策定した、経営体質の強化や利用促進を図るための年次行動計画「京都市交通事業第2次アクションプログラム」（以下「第2次アクションプログラム」）の事業項目を評価対象とし、評価を行いました。

#### (1) 評価方法

平成19年度の事務事業の実績と決算数値等による事後評価としました。

各事務事業の評価については、進ちよく状況を表す「活動量指標」とその取組による効果を表す「成果指標」を設定し、その達成度を勘案し、3段階で評価することとしています。活動量達成度、成果達成度がともに100%以上で目標を達成できたものを「A」の評価とし、いずれか一方が100%未満となったものを「B」の評価、さらに、いずれもが100%未満で目標を達成できなかったものを「C」の評価とすることとしました。

これら、各取組項目の評価結果を踏まえ、事業単位での考察を行うとともに、今後の方向性を示しました。

#### 【総合評価の判断基準】

総合評価	活動量達成度	成果達成度	備考
A	100%以上	100%以上	目標を達成できた。
B	いずれかが100%以上		一部目標を達成できなかった。
C	いずれもが100%未満		目標を達成できなかった。

#### (2) 評価結果の概要

評価の結果については、全体の82%である18項目が「A」という評価です。また、評価対象事業22項目すべてが「A」または、「B」という評価であり、第2次アクションプログラムの対象事業は着実に進ちよくしていると判断できます。

#### 【総合評価の結果】

総合評価	A	B	C	計
	18	4	0	22
構成比	82%	18%	0%	100%

## 2 評価結果一覧

京都市交通事業第2次アクションプログラム		
事業番号	事業名	総合評価
<b>安全・安心・快適な市バス・地下鉄の運行</b>		
1	市バス・地下鉄の安全対策の推進	A
2	市バス路線・ダイヤの改善	A
3	市バスの走行環境改善による定時性の確保	A
4	バス待ち環境の改善	A
5	I Tの活用による情報提供	A
6	分かりやすい案内表示への改善	A
<b>乗客増、収入増のための積極的な営業推進</b>		
7	地下鉄の増収・増客対策の実施	A
8	広告料収入増対策の実施	B
9	運賃制度の改善	A
10	市民に愛される市バス・地下鉄を目指したPR活動の実施	A
11	観光客の誘致による増客対策の実施	B
<b>経営健全化に向けた取組の推進</b>		
12	「管理の受委託」の拡大	—
13	総人件費の抑制	A
14	経費の削減	A
15	「生活支援路線」の効率的・効果的な確保策の実施	A
16	地下鉄事業の長期収支改善	A
17	外郭団体改革の推進	—
<b>職員の育成と案内・相談の充実によるお客様第一のサービス提供</b>		
18	お客様接遇の向上	B
19	職員研修と「業績評価制度」の実施	A
20	市民とのパートナーシップの推進	B
<b>人や環境にやさしい公共交通優先型の社会への貢献</b>		
21	地下鉄の延伸	A
22	「歩くまち・京都」交通まちづくりプランによるTDM施策との連携	A
23	市バス・地下鉄施設のバリアフリー化の推進	A
24	環境保全対策の推進	A

- ・『12 「管理の受委託」の拡大』については、平成18年度（19年3月）に事業が完了したので、評価対象外とした。
- ・『17 外郭団体改革の推進』については、実施年度が平成20年度であるため、評価対象外とした。

### 3 事務事業評価の実施結果

【構成とその内容】

5 ITの活用による情報提供 …ホームページやモバイル端末などを活用①、市民や観光客等が必要とする情報を迅速かつ的確に提供することで、お客様の利便性向上を図る。				
この事業を進めるための取組		①交通局ホームページの充実 ②インターネット検索サービス「洛ナビ」の導入		
活動量指標1	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	総合評価
ホームページ新規作成ページ数	50ページ	72ページ	144%	
活動量指標2	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	A
インターネット経路検索サービス「洛ナビ」の導入	サービス開始	サービス開始	100%	
成果指標	成果目標	成果実績値	成果達成度	
ホームページへのアクセス件数（携帯端末を含む）	40,209件/日 （18年度実績値）	61,275件/日	152%	

成果	達成	B	A
	未達成	⑥	B
		未達成	達成
		活動量	

活動量の交通局ホームページにおける新規作成ページ数と「洛ナビ」の導入は、目標を⑦している。成果であるホームページへのアクセス件数（携帯端末を含む。）についても、目標を達成しているため、総合評価は「A」とする。

#### 【考察】

- ホームページで常に新鮮な情報を提供することは、アクセス数の増加に大きな影響を与え、市バス・地下鉄の利用促進につながるものと考えます。
- パソコンや携帯電話から市バス・地下⑧経路をインターネット検索できるサービス「洛ナビ」を開始し、お客様からのご要望が多かった目的地までの所要時間や、乗車いただくバス系統番号、運賃、距離等が検索いただけるようになり、これにより、お客様の利便性向上、利用促進を図ることができた。

#### 【今後の方向性】

- 今後も、質・量ともに充実した魅力あるホームページ作りを通じて、市バス・地下鉄の取組をPRし、お客様の理解が深まる⑨努めていく。
- 「洛ナビ」の更なる活用について検討していく。

## 項目の説明

- ① 第2次アクションプログラムの事業名と事業内容
- ② 第2次アクションプログラムの事業を進めるための取組
- ③ 活動量指標，活動量目標，活動量実績値，活動量達成度  
交通局が行う取組の進ちょく状況を客観的数値や記号等で表したものの
- ④ 成果指標，成果目標，成果実績値，成果達成度  
交通局の取組による成果を客観的数値や記号等で表したものの
- ⑤ 総合評価  
活動量達成度と成果達成度を総合的に判断して算出した評価
- ⑥ 達成度イメージ図  
評価結果をわかりやすくイメージ図で示したものの

### 【総合評価の判断基準（3段階評価）】

総合評価	活動量達成度	成果達成度	備考
A	100%以上	100%以上	目標を達成できた。
B	いずれかが100%以上		一部目標を達成できなかった。
C	いずれもが100%未満		目標を達成できなかった。

- ⑦ 評価の根拠  
総合評価を行った根拠を示したものの
- ⑧ 考察  
当該事務事業の評価結果を踏まえ、交通局としての考えを示したものの
- ⑨ 今後の方向性  
平成20年度以降の取組の方向性、事務事業評価に係る改善点等について交通局としての考えを示したものの



## 2 市バス路線・ダイヤの改善

…市バス系統及びダイヤについて、利便性の向上と効率化の観点からの見直しを実施し、お客様の一層の利用促進を図る。

この事業を進めるための取組		①市バス系統の見直し ②市バスダイヤの適正化 ③「100円循環バス」の利用促進策の実施		
活動量指標 1	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	総合評価
旅客需要に見合った系統の見直し	運転計画の実施	実施	100%	A
活動量指標 2	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	
ダイヤの見直し	年1回の点検実施	実施	100%	
活動量指標 3	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	
「100円循環バス」の利用促進策	利用促進策の実施	実施	100%	
成果指標	成果目標	成果実績値	成果達成度	
市バスの旅客数 (敬老等を除く)	236,607人/日 (18年度実績値)	240,737人/日	102%	

成果	達成	B	A
	未達成	C	B
		未達成	達成
		活動量	

活動量は、地下鉄東西線延伸の際の太秦天神川駅への接続を中心とした市バス路線再編等の運転計画の実施や、区間運転時分の調整をはじめとするダイヤの見直しの実施など、各指標で目標を達成している。成果である市バスの旅客数についても目標に達したことから、総合評価は「A」とする。

### 【考察】

- 市バスの旅客数を1日当たり約4千人増加させることができた。
- 平成20年1月16日の地下鉄東西線二条～太秦天神川間の延伸に合わせて市バス路線の再編を実施し、市バス・地下鉄の一体的なネットワークの構築と、太秦天神川駅や右京区総合庁舎等の新しい拠点へのアクセス向上を図った。
- より積極的にお客様に市バスをご利用していただくため、観光シーズンにおける観光系統の増便や通勤・通学輸送の増強等を行った。
- 「歩いて楽しいまちなか戦略」社会実験での取組として、100円循環バスを活用し利用が多い時間帯に増便するなど、利用促進を図った。
- 各取組とも成果指標である1日当たりの市バス旅客数に大きな影響を与えるものであるが、施設の開設や市バスの走行環境、入洛観光客の動向など、本取組以外の多くの要素から影響を受けることに留意する必要がある。

### 【今後の方向性】

- 引き続き、鉄道駅の開設に合わせた市バス路線の見直しなど、旅客需要の変化に応じた利用しやすい系統とすることやバス乗客計数器を活用し、系統ごとの利用実態に合わせたきめ細やかなダイヤ設定を更に進めることにより、効率的かつ利便性の高い市バス路線網の構築に努める。



#### 4 バス待ち環境の改善

…バスロケーションシステムや上屋・ベンチなどの設置、バス停留所間の距離の改善など、バス停留所を総合的に充実させることにより、お客様に快適なバス待ち環境を提供する。

この事業を進めるための取組	①バスロケーションシステムの増設 ②地下鉄駅への「市バス接近表示器」の設置 ③バス停留所環境の整備			
活動量指標 1	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	総合評価  <b>A</b>
バスロケーションシステムの設置数	8基	8基	100%	
活動量指標 2	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	
地下鉄駅への「市バス接近表示器」の設置数	5基	5基	100%	
活動量指標 3	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	
停留所上屋の設置数	4基	4基	100%	
成果指標	成果目標	成果実績値	成果達成度	
市バスの旅客数 (敬老等を除く)	236,607人/日 (18年度実績値)	240,737人/日	102%	

成果	達成	B	<b>A</b>
	未達成	C	B
		未達成	達成
		活動量	

活動量は、バスロケーションシステム、地下鉄駅への「市バス接近表示器」及びバス停留所施設の上屋について、目標どおり設置することができた。成果である市バスの旅客数についても、前年度実績以上の旅客数を確保することができたため、総合評価は「A」とする。

#### 【考察】

- バスロケーションシステムは、お客様にバスの接近情報をリアルタイムでお知らせするものであり、また、バス停留所施設の上屋整備はより快適なバス待ち環境を提供するものであるため、双方とも増設することにより、お客様の利便性向上及び利用促進に大きく貢献した。
- 地下鉄への市バス接近表示器の設置は、市バスと地下鉄を乗り継ぐお客様の利便性を向上させ、利用促進を図ることができた。
- 成果指標の一日当たりの「市バスの旅客数」は、バスロケーションシステムや地下鉄駅への市バス接近表示器の設置だけによって目標を達成できるものではなく、交通局の他の利用促進策や京都市の観光客誘致施策等が相まって得られるものであることに留意する必要がある。

#### 【今後の方向性】

- 今後とも、着実に施設の整備を行い、より多くのお客様にご利用いただけるよう、快適なバス待ち環境改善に努める。

## 5 ITの活用による情報提供

…ホームページやモバイル端末などを活用し、市民や観光客等が必要とする情報を迅速かつ的確に提供することで、お客様の利便性向上を図る。

この事業を進めるための取組		①交通局ホームページの充実 ②インターネット経路検索サービス「洛ナビ」の導入		
活動量指標 1	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	総合評価  <b>A</b>
ホームページ新規作成ページ数	50ページ	72ページ	144%	
活動量指標 2	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	
インターネット経路検索サービス「洛ナビ」の導入	サービス開始	サービス開始	100%	
成果指標	成果目標	成果実績値	成果達成度	
ホームページへのアクセス件数（携帯端末を含む）	40,209件/日 (18年度実績値)	61,275件/日	152%	

成果	達成	B	<b>A</b>
	未達成	C	B
		未達成	達成
		活動量	

活動量の交通局ホームページにおける新規作成ページ数と「洛ナビ」の導入は、目標を達成している。成果であるホームページへのアクセス件数（携帯端末を含む。）についても、目標を達成しているため、総合評価は「A」とする。

### 【考察】

- ホームページで常に新鮮な情報を提供することは、アクセス数の増加に大きな影響を与え、市バス・地下鉄の利用促進につながるものと考えます。
- パソコンや携帯電話から市バス・地下鉄の経路をインターネット検索できるサービス「洛ナビ」を開始し、お客様からのご要望が多かった目的地までの所要時間や、乗車いただくバス系統番号、運賃、距離等が検索いただけるようになり、これにより、お客様の利便性向上、利用促進を図ることができた。

### 【今後の方向性】

- 今後も、質・量ともに充実した魅力あるホームページ作りを通じて、市バス・地下鉄の取組をPRし、お客様の理解が深まるよう努めていく。
- 「洛ナビ」の更なる活用について検討していく。

## 6 分かりやすい案内表示への改善

…時刻表や路線図をはじめとする案内表示等を、すべてのお客様に分かりやすく利用しやすいように改善する。

この事業を進めるための取組	①分かりやすい市バス・地下鉄路線図の作成 ②地下鉄駅の主要乗継駅における案内板等の設置 ③外国人観光客向け案内表示の充実 ④観光系統における観光案内の充実			
活動量指標 1	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	総合評価
路線図の変更	年1回以上の見直しの実施	見直しの実施	100%	A
活動量指標 2	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	
地下鉄主要乗継駅における乗継案内板の設置数	2駅に設置	2駅に設置	100%	
活動量指標 3	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	
地下鉄出入口の案内標識の4箇国語表記への改善数	4駅で実施	4駅で実施	100%	
活動量指標 4	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	
市バス車内放送における案内内容の充実	英語案内放送の追加	実施	100%	
成果指標	成果目標	成果実績値	成果達成度	
市バス・地下鉄の旅客数(敬老等を除く)	529,522人/日(18年度実績値)	536,920人/日	101%	

成果	達成	B	A
	未達成	C	B
		未達成	達成
		活動量	

活動量は、路線図の見直しをはじめ、全ての指標において目標を達成している。成果である市バス・地下鉄の旅客数についても、昨年度の実績を上回り目標を達成していることから、総合評価は「A」とする。

### 【考察】

- 地下鉄主要乗継駅における地下鉄と市バスの乗継案内板の設置や地下鉄烏丸線出入口を示す案内標識の4箇国語表記への改善は、目標どおり取組を進めており、お客様の利便性向上に寄与できている。
- 市バス・地下鉄路線図や市バスの車内放送についても、市バスの運転計画の変更に合わせ、内容の充実を図っている。

### 【今後の方向性】

- 観光客等、京都に馴染みのない方をはじめとして、京都にお住まいになっている方々にとっても、市バス・地下鉄における案内表示は極めて重要であり、より分かりやすく、利用しやすいものとなるよう着実に改善を進めていく。

## 7 地下鉄の増収・増客対策の実施

…地下鉄駅の空きスペース等を有効に活用することにより駅の魅力アップと増収を図るとともに、駅周辺地域の特性に応じた増客対策を推進する。

この事業を進めるための取組	①地下鉄駅の有効利用による「駅ナカビジネス」の展開 ②地下鉄駅を中心とした、周辺地域との連携による集客・活性化方策の推進			
活動量指標 1	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	総合評価  <b>A</b>
駅ナカビジネスの新規出店数	1店舗開店	1店舗開店	100%	
活動量指標 2	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	
駅周辺の施設と連携した事業数	3事業実施	3事業実施	100%	
成果指標	成果目標	成果実績値	成果達成度	
地下鉄の旅客数 (敬老等を除く)	292,915人/日 (18年度実績値)	296,183人/日	101%	
地下鉄の営業収益	231億84百万円 (18年度実績値)	236億36百万円	102%	

成果	達成	B	<b>A</b>
	未達成	C	B
		未達成	達成
		活動量	

活動量については、駅ナカビジネスとして、平成19年10月に京都駅に雑貨店を出店する等、各指標において目標を達成している。成果である地下鉄の旅客数や営業収益も前年度実績を上回り、目標を達成していることから、総合評価は「A」とする。

### 【考察】

- 駅ナカビジネスについては、毎年着実に有効利用収入を伸ばすとともに、平成19年10月に京都駅に雑貨店「KITTO」を開店する等、店舗展開も計画どおり実施しているほか、太秦天神川駅や山科駅に現金自動預払機(ATM)の設置も開始した。
- 駅周辺の施設と連携した事業については、京都市内の商店街等で構成する「きょうと情報カードシステム」(KICS)と連携し、クレジット機能付きICカード「京都ぶらすOSAKA PiTaPa」を活用した地下鉄運賃還元サービスである「レール&ショッピングin京都」や、「地下鉄沿線エリアマップ」のリニューアル(駅周辺施設に優待施設として協力いただき、特典を誌面で紹介)、地下鉄東西線の延伸を記念した「京都チャレンジスタンプ&キーワードラリー」を実施し、お客様サービスの向上を図った。
- これらの取組の実施は、お客様の利便性向上はもとより、地下鉄のお客様、営業収入の増加にも寄与していると考えている。

### 【今後の方向性】

- 現金自動預払機(ATM)や災害対応型自動販売機の設置など、更なる駅ナカビジネスの拡大に取り組む。
- 平成20年4月に設置した「乗っておくれやす大作戦プロジェクトチーム」を中心に、交通・観光関連事業者や市の関係部局とも連携し、積極的なお客様増加策に取り組む。



## 9 運賃制度の改善

…お客様にとってシンプルで分かりやすく、より一層市バス・地下鉄をご利用いただけるように、ICカード乗車券の導入や企画乗車券の充実などの運賃制度の改善を行う。

この事業を進めるための取組	①ICカード乗車券（PiTaPa）の導入 ②企画乗車券の充実 ③定期券制度の充実			
活動量指標 1	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	総合評価  <b>A</b>
地下鉄でのICカード乗車券サービスの導入	サービス導入	サービス開始	100%	
活動量指標 2	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	
企画乗車券の発売枚数	338,175枚 (18年度実績値)	386,193枚	114%	
活動量指標 3	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	
市バス通勤フリー定期券の発売枚数(地下鉄との連絡定期を含む)	103,358枚 (18年度実績値)	107,977枚	104%	
成果指標	成果目標	成果実績値	成果達成度	
市バス・地下鉄の旅客数(敬老等を除く)	529,522人/日 (18年度実績値)	536,920人/日	101%	

成果	達成	B	<b>A</b>
	未達成	C	B
		未達成	達成
		活動量	

活動量の、地下鉄へのICカード乗車券導入、企画乗車券・市バス通勤フリー定期券の発売枚数は、ともに目標を達成することができた。成果である市バス・地下鉄の旅客数も目標を達成していることから、総合評価は「A」とする。

### 【考察】

- 平成19年4月1日からPiTaPaなどのICカードの利用サービスを地下鉄で開始するとともに、PiTaPaで地下鉄をご利用いただいた場合の運賃割引サービス「利用額割引」を実施し、利便性の向上を図った。
- 他の鉄道・バス会社と連携した企画乗車券は、観光で京都を訪れる方にとって利用しやすく、好評をいただいております。発売枚数も増え、お客様の増加につながった。
- お客様の増加を図るため、地下鉄東西線延伸を契機に、地下鉄全線と嵐電全線が1日乗り放題となる「京都地下鉄・嵐電1dayチケット」と地下鉄、嵐電、京阪大津線の全線が1日乗り放題となる「京都嵐山・びわ湖大津1dayチケット」を新たに発売した。
- 「市バス通勤フリー定期券」(平成17年4月発売)や「市バス通勤フリー定期券と地下鉄定期との連絡定期券」(平成18年1月発売)などの市バス・地下鉄のネットワークを生かして新たに発売した定期券は引き続き大変好評であり、旅客収入やお客様の増加に大きく貢献している。

### 【今後の方向性】

- 各取組とも、引き続きPR活動を継続し、お客様の増加に努めていく。
- 運賃制度の改善については、お客様のニーズや収益性を見極めつつ、引き続き、検討を進める。

**10 市民に愛される市バス・地下鉄を目指したPR活動の実施**  
 …様々な取組を通じて市バス・地下鉄を積極的にPRすることにより、交通局のイメージアップを図り、旅客増を目指す。

この事業を進めるための取組	①アートパフォーマンス in 山科駅の開催 ②「区民ふれあいまつり」への参加 ③「スルッとKANSAIバスまつり」への参加 ④市の事業とのタイアップ ⑤オリジナルグッズの企画・販売			
<b>活動量指標 1</b>	<b>活動量目標</b>	<b>活動量実績値</b>	<b>活動量達成度</b>	<b>総合評価</b>  <b>A</b>
アートパフォーマンス in 山科駅の開催数	毎月開催 (合計12回)	毎月開催 (合計12回)	100%	
<b>活動量指標 2</b>	<b>活動量目標</b>	<b>活動量実績値</b>	<b>活動量達成度</b>	
「区民ふれあいまつり」への参加	年間3回参加	年間4回参加	133%	
<b>活動量指標 3</b>	<b>活動量目標</b>	<b>活動量実績値</b>	<b>活動量達成度</b>	
「スルッとKANSAIバスまつり」への参加	参加(年1回)	参加(年1回)	100%	
<b>活動量指標 4</b>	<b>活動量目標</b>	<b>活動量実績値</b>	<b>活動量達成度</b>	
花灯路事業とのタイアップ	1事業	1事業	100%	
<b>活動量指標 5</b>	<b>活動量目標</b>	<b>活動量実績値</b>	<b>活動量達成度</b>	
発売したオリジナルグッズの種類	2種類	3種類	150%	
<b>成果指標</b>	<b>成果目標</b>	<b>成果実績値</b>	<b>成果達成度</b>	
市バス・地下鉄の旅客数 (敬老等を除く。)	529,522人/日 (18年度実績値)	536,920人/日	101%	

成果	達成	B	<b>A</b>
	未達成	C	B
		未達成	達成
		活動量	

活動量は、「アートパフォーマンス in 山科駅」の開催数、「区民ふれあいまつり」や「スルッとKANSAIバスまつり」への参加など、全ての指標で目標を達成している。成果である市バス・地下鉄の旅客数も目標を上回ったことから、総合評価は「A」とする。

**【考察】**

- 各種イベントへの参加は、お客様に直接市バス・地下鉄をPRできる絶好の機会であり、利用者の増加につながるものである。
- オリジナルグッズの企画・販売は、市バス・地下鉄のイメージアップになると同時に、商品発売による直接的な収入を伴うことから、積極的な販売促進策を講じていく。

**【今後の方向性】**

- 更なるお客様の増加につなげるため、各種イベントに引き続き参加し、内容の充実に努めるとともに、市バス・地下鉄のブランドイメージの定着と収益の向上を両立させるべく、引き続き、魅力的なグッズの作成と販売に取り組む。

## 11 観光客の誘致による増客対策の実施

…観光客5,000万人を目指す「新都市観光振興推進計画」に基づき、積極的に旅客誘致を図るとともに、より多くの観光客に市バス・地下鉄による快適な京都観光を楽しんでいただけるよう利便性の向上に取り組む。

この事業を進めるための取組		①「洛バス」の利用促進に向けた取組 ②定期観光バス事業の利用促進策の推進		
活動量指標1	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	総合評価  <b>B</b>
観光シーズンにおける洛バスの増発	30回/日 (増発計画)	48回/日	160%	
活動量指標2	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	
定期観光バス事業の利用促進策の実施	利用促進策の実施	「京都おこしやす大学」との連携	100%	
成果指標	成果目標	成果実績値	成果達成度	
定期観光バスの旅客数	32,066人/年 (18年度実績値)	28,716人/年	90%	
年間入洛観光客数	4,839万人 (18年実績値)	4,945万人	102%	

成果	達成	B	A
	未達成	C	<b>B</b>
		未達成	達成
		活動量	

活動量の観光シーズンにおける洛バスの増発や定期観光バス事業の利用促進策の実施は目標を達成している。しかし、成果のうち、年間入洛観光客数は目標を達成しているものの、定期観光バスの旅客数については目標に達しなかったことから、総合評価は「B」とする。

### 【考察】

- 観光客誘致施策については、定期観光バス事業において、体験型観光施策である「京都おこしやす大学」との更なる連携を図るなどの改善を行うとともに、洛バスについても観光シーズンを中心に増発し、観光客の市バスの利用促進を図った。
- 京都市への観光客数は、定期観光バスや洛バスの運行の取組はもとより、京都市の観光客誘致施策や交通局の他の利用促進策などが相まって得られた成果であることに留意する必要がある。

### 【今後の方向性】

- 首都圏からの観光客のために「京都館（東京都八重洲口正面）」での京都観光一日乗車券などの発売や、旅行代理店との提携により関西圏外の観光客向けの旅行商品に京都観光一日乗車券を組み込むなど、観光利用の促進を図る。
- 観光客数と市バス・地下鉄のお客様の増加に向け、今後とも、市の観光客の誘致施策との連携を図っていく。
- 旅客数が減少している定期観光バス事業について、今後のあり方を検討する。



## 14 経費の削減

…20年度で対14年度予算比1割（10%）の削減の達成に向けて、事務事業評価の活用等により事業の徹底した見直しを行い、費用の削減を目指す。

この事業を進めるための取組	①削減目標額及び予算枠の設定 ②事務事業評価等を活用した予算の見直し ③予算の執行管理の強化			
活動量指標	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	総合評価
経費の削減額	7億55百万円 (年次計画値)	9億23百万円 (バス3億72百万円 地下鉄5億51百万円)	122%	A
成果指標	成果目標	成果実績値	成果達成度	
平成14年度予算に対する削減率	対14年度予算比 8%削減	10%削減	125%	

成果	達成	B	A
	未達成	C	B
		未達成	達成
		活動量	

活動量の経費の削減額については、目標を達成している。成果である平成14年度予算に対する削減率も目標を達成していることから、総合評価は「A」とする。

### 【考察】

○目標を上回る経費削減を達成しており、交通局の財政健全化に大きく寄与している。

### 【今後の方向性】

○今後も積極的に経費削減に努め、交通局全体の経営健全化を推進していく。

### 15 「生活支援路線」の効率的・効果的な確保策の実施

…市バス系統において、運営コストを民営並に縮減したとしても、収支が赤字となる「生活支援路線」について、市民の足を守るため、系統の維持を図る。具体的には、当面の財政措置として一般会計からの繰入を確保するとともに、効率的な運行と利便性の向上の両立を目指した「小型バス・ジャンボタクシー代替モデル実証実験」を実施し、運営方策についての方向付けを行い、「生活支援路線」の確保策の確立を目指す。

この事業を進めるための取組	①「生活支援路線」に対する一般会計支援 ②「小型バス・ジャンボタクシー代替モデル実証実験」の継続実施			
活動量指標 1	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	総合評価       <b>A</b>
一般会計からの財政支援の額	所要額の確保	11億66百万円の確保	100%	
活動量指標 2	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	
小型バス・ジャンボタクシー代替モデル実証実験の継続実施	継続実施	継続実施	100%	
成果指標	成果目標	成果実績値	成果達成度	
実証実験結果の反映	実験結果を踏まえた運行の実施	小型バスを増車し運行実施	100%	

成果	達成	B	<b>A</b>
	未達成	C	B
		未達成	達成
		活動量	

活動量については、「生活支援路線」を維持するための方策として、一般会計からの補助金を引き続き受けるとともに、コスト削減を目指し「小型バス・ジャンボタクシー代替モデル実証実験」を平成20年1月まで引き続き実施しており、目標を達成している。成果である実験結果の反映についても、結果を踏まえた運行を開始しており、目標を達成していることから、総合評価は「A」とする。

#### 【考 察】

- 「京都市交通事業審議会」からの答申により、民営並コストで運営してもなお赤字となる路線に対する財政支援として、一般会計から引き続き補助が得られていることは、生活支援路線の維持に向けて非常に有効な取組である。
- 民間事業者と連携して平成17年7月から平成20年1月まで実施した「小型バス・ジャンボタクシー代替モデル実証実験」の成果を踏まえ、低コストで小回りの利く小型バスを増車（5両）し、市内南西部6系統で運行を行っている。（小型バス在籍車両19両）

#### 【今後の方向性】

- 市民生活に欠かせない市バス路線のネットワークを維持するため、地元地域と連携した路線のPRなど、生活支援路線の増客に取り組む。

## 16 地下鉄事業の長期収支改善

…将来にわたり、安定的かつ持続可能な地下鉄の経営を確保するため、「地下鉄事業経営健全化対策」等国制度の活用を図るとともに、交通局の健全化努力及び一般会計からの支援措置を得て、地下鉄事業の長期収支の改善を図る。

この事業を進めるための取組	①「地下鉄事業経営健全化計画」の着実な推進 ②地下鉄駅職員業務の民間委託化の実施 ③東西線線路使用料の見直し			
活動量指標 1	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	総合評価           A
健全化出資金の確保	健全化出資金の確保	66億75百万円の確保	100%	
活動量指標 2	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	
利用者負担緩和支援補助金の確保	利用者負担緩和支援補助金の確保	3億30百万円の確保	100%	
活動量指標 3	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	
駅職員業務の一部民間委託化の実実施駅数	7駅	7駅	100%	
活動量指標 4	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	
東西線（御陵～三条京阪間）線路使用料の削減額	17億円（計画値）	17億円	100%	
成果指標	成果目標	成果実績値	成果達成度	
現金収支（償却前損益）改善※税抜き	△76億円（計画値）	△54億円	141%	

成果	達成	B	A
	未達成	C	B
		未達成	達成
		活動量	

活動量については、地下鉄事業経営健全化計画に基づく一般会計からの支援確保や、更なる健全化努力である駅職員業務の民間委託化など、全指標で目標を達成した。成果である現金収支（償却前損益）についても、計画値から22億円改善し、目標を達成しているため、総合評価は「A」とする。

### 【考 察】

- 各取組の推進により、当面の目標である平成23年度での現金収支の黒字化（運賃収入で運営費、建設に要した借入金の返済利子を賄える状況）には徐々に近づきつつある。
- 平成19年度からは、更なる経営健全化を図るため、駅職員業務の一部の民間委託化を実施したほか、国において創設された「公的資金補償金免除繰上償還」制度を活用し、金利5%以上の高金利建設企業債を借換えることにより、利息負担の軽減が図れ、現金収支の改善を進めることができた。

### 【今後の方向性】

- 「地下鉄事業経営健全化計画」に基づく取組を推進するとともに、更なる経営健全化策として、線路使用料の負担を軽減するため、平成20年度末に東西線の第三セクター区間の運営を京都市直営方式に改めることとした。これにより、国の制度である「資本費平準化債」を活用して資金不足の抑制が可能となるとともに、この区間の建設費返済について、交通局が線路使用料を負担し、第三セクターが返済する場合と比較して、約600億円の将来負担が軽減されることとなる。

## 18 お客様接遇の向上

…お客様により一層満足していただける市バス・地下鉄を目指し、市バス・地下鉄案内所の機能の充実を図るとともに、職員への表彰や指導を行うなど、信賞必罰を明確にした制度を実施する。

この事業を進めるための取組	①市バス・地下鉄案内所の新設と機能の充実 ②「市バス・地下鉄サービスアップ優秀職員モニター制度」の継続実施			
活動量指標	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	総合評価
モニター延べ調査回数	9,857回 (18年度実績値)	9,788回	99%	B
成果指標	成果目標	成果実績値	成果達成度	
「お客様の声」における礼状の数	60件 (過去5年間平均値)	69件	115%	

成果	達成	B	A
	未達成	C	B
		未達成	達成
		活動量	

活動量のモニター延べ調査回数については目標数を下回った。しかし、成果である「お客様の声」における礼状の数は目標を上回ったことから、総合評価は「B」とする。

### 【考 察】

- お客様接遇の向上には、最前線の現場職員のマナー向上が不可欠であり、そのため交通局の管理職員が接遇状況の調査を行い、現場職員への指導を行うモニター制度は、非常に効果的な取組である。
- こうした取組の結果、お客様から寄せられた礼状の数は、目標である過去5年間の平均値を上回っており、職員の資質の向上は確実に図れているものと考えられる。

### 【今後の方向性】

- お客様への感謝表明やお客様の立場に立った案内や応対ができる接遇の優秀な職員に対して表彰する一方、接遇が不良な運転士については個別研修の強化をはじめとした厳しい指導を行い、問題がある運転士については処分の対象とするなど、信賞必罰の強化を図り、職員全体の資質向上に努めていく。
- 地下鉄東西線（二条～太秦天神川間）の延伸開通に伴い、平成20年3月31日に新設した太秦天神川駅上の「SANS A右京」1階の市バス・地下鉄案内所において、嵐山、嵯峨野方面への案内の充実を図っていく。



## 20 市民とのパートナーシップの推進

…お客様から幅広く意見・要望を受け付けることや関係NPO団体等との懇談により、交通局に対するお客様のニーズの把握に努め、今後の事業運営に反映させる。

この事業を進めるための取組	①「お客様の声」の聴取及び反映に向けた取組 ②お客様に対する「利用者アンケート」の実施 ③「交通局運営方針」の策定 ④関係NPO団体等との連携			
活動量指標 1	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	総合評価           B
「お客様の声」の受付件数	1,290件 (18年度実績値)	1,158件	90%	
活動量指標 2	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	
「利用者アンケート」の実施	「市政総合アンケート」の活用	バスの利用状況等調査に活用	100%	
活動量指標 3	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	
「交通局運営方針」の策定	策定	策定	100%	
活動量指標 3	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	
関係NPO団体等が実施する事業への参画	事業への参画 (1回以上)	1回参画	100%	
成果指標	成果目標	成果実績値	成果達成度	
お客様の声の回答率	100%	100%	100%	

成果	達成	(B)	A
	未達成	C	B
		未達成	達成
		活動量	

活動量について、「交通局の運営方針」の策定や関係NPO団体等との連携などは実施できたが、「お客様の声」の受付件数は目標に達しなかった。成果であるお客様の声への回答件数割合については回答が必要なものについてはすべて回答でき、目標を達成していることから、総合評価は「B」とする。

### 【考 察】

○いずれも市民とのパートナーシップを緊密にするものであり、市民ニーズに応えたサービスを提供するうえで、非常に重要な取組である。

### 【今後の方向性】

○お客様の声については、市長への手紙（電子メールを含む。）、京都市政情報総合案内コールセンター（いつでもコール）、交通局への書状等や交通局ホームページへの電子メールなど多様な方法で礼状、苦情、意見・要望等を受け付けている。今後も、お寄せいただいたご意見を事業に反映できるよう生かしていく。

## 2.1 地下鉄の延伸

…地下鉄東西線（二条～太秦天神川間）の早期開通を目指すとともに、新たな整備手法も視野に入れた地下鉄の更なる延伸（烏丸線：竹田以南、東西線：太秦天神川以西）の検討を行う。

この事業を進めるための取組	地下鉄東西線（二条～太秦天神川間）の開通及び建設費の削減			
活動量指標 1	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	総合評価
土木工事の進捗よく率	100%	100%	100%	A
活動量指標 2	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	
軌道工事の進捗よく率	100%	100%	100%	
活動量指標 3	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	
建築工事の進捗よく率	100%	100%	100%	
活動量指標 4	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	
駅設備工事の進捗よく率	100%	100%	100%	
活動量指標 5	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	
電力設備工事の進捗よく率	100%	100%	100%	
成果指標	成果目標	成果実績値	成果達成度	
東西線（二条～太秦天神川間）の予定どおりの開業	19年度中の開業（当初予定）	20年1月16日開業	100%	

成果	達成	B	A
	未達成	C	B
		未達成	達成
		活動量	

活動量の各種工事の進捗よく率は、目標を達成し、成果についても、東西線（二条～太秦天神川間）の開業は、当初予定よりも2ヶ月早い、平成20年1月16日からとすることができたため、総合評価は「A」とする。

### 【考 察】

- 東西線二条～太秦天神川間については、車両の試運転などと並行して駅舎の建築・設備工事や出入口工事を行い、工程の適切な管理と工事の安全管理の徹底に取り組んだことで当初の予定より2ヶ月早い平成20年1月16日に開業することができた。
- 本取組は、都市における重要な大量輸送機関である地下鉄を、より多くの市民の皆様にご利用いただけるようにするものであり、この開通により、京都市の東西及び南北の大動脈としての役割を果たす、広域的なネットワークの拡充が図れた。

**22 「歩くまち・京都」交通まちづくりプランによるTDM施策との連携**  
 …高齢者や身体に障害のある人をはじめとするすべての人が安全で快適に、歩き、移動できる「歩くまち・京都」を実現するため、交通事業者として積極的に参画する。

この事業を進めるための取組		公共交通の利用促進に向けた交通社会実験等への参画及び具体的な取組の検討		
活動量指標 1	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	総合評価  <b>A</b>
交通社会実験への参画	「歩いて楽しいまちなか戦略」社会実験への参画	参画	100%	
活動量指標 2	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	
観光シーズンにおける公共交通の利用促進に向けた取組	鉄道駅と観光地を結ぶ臨時バスの運行	運行実施	100%	
成果指標	成果目標	成果実績値	成果達成度	
100円循環バスの旅客数	700人/日 (18年度実績)	720人/日	103%	
秋の観光シーズンにおける東山シャトルバスの旅客数	20,659人 (18年度実績)	21,204人	103%	

成果	達成	B	<b>A</b>
	未達成	C	B
		未達成	達成
		活動量	

活動量については、交通社会実験への参画として、「歩いて楽しいまちなか戦略」社会実験での取組を実施するなど、各指標で目標を達成している。成果である100円循環バスの旅客数や秋の観光シーズンにおける東山シャトルバスの旅客数についても、目標に達したことから、総合評価は「A」とする。

**【考 察】**

- 平成19年10月の「歩いて楽しいまちなか戦略」社会実験に参画し、100円循環バスについて、利用が多い時間帯の増便や運行時間の延長、小型ノンステップバス「ポンチョ号」での運行を実施するなど、より便利なバスサービスの実現を図った。
- 春・秋の観光シーズンには、市バス・地下鉄による快適な京都観光を楽しんでいただくため、鉄道駅と観光地とを結ぶ臨時バスの運行や東山駅での市バスから地下鉄への無料乗り継ぎの実施、職員による案内サービスを内容とする「おもてなしキャンペーン」に取り組んでいる。
- 関係部署や関係機関と緊密な連携を取りつつ、これらの取組を実施することにより、京都市域の公共交通機関として重要な役割を担う立場から、京都市基本計画に位置づけられている「歩くまち・京都」の実現に向け、役割を果たしていると考えている。

**【今後の方向性】**

- 京都市が進めている人や環境にやさしい公共交通優先型の「歩くまち・京都」の実現に向け、交通局としての役割を積極的に担っていく。

## 2.3 市バス・地下鉄施設のバリアフリー化の推進

…交通バリアフリー法及び「京都市みやこユニバーサルデザイン推進条例」に基づき、市バス・地下鉄のバリアフリー化を進め、高齢者や身体に障害のある方など、すべてのの方々にとって公共交通機関を使った移動が容易になるよう努める。

この事業を進めるための取組	①ノンステップバス等低床型車両の導入促進 ②低床型車両に適したバス停留所への改善 ③地下鉄駅における多目的トイレへの改善 ④地下鉄におけるその他の取組			
活動量指標 1	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	総合評価           A
ノンステップバス等低床型車両の導入車両数	83両	88両	106%	
活動量指標 2	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	
バス停留所施設改善数	10箇所	21箇所	210%	
活動量指標 3	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	
多目的トイレへの改修件数	2駅	2駅	100%	
活動量指標 4	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	
地下鉄東西線各駅の階段手すり点字表示改修	実施	実施	100%	
成果指標	成果目標	成果実績値	成果達成度	
市バス・地下鉄の旅客数（敬老等を除く。）	529,522人/日 (18年度実績値)	536,920人/日	101%	
ノンステップバス等低床型車両の導入率	73.2%	73.8%	101%	
多目的トイレへの改修率	70.6%	70.6%	100%	

成果	達成	B	A
	未達成	C	B
		未達成	達成
		活動量	

活動量については、ノンステップバス等低床型車両の導入車両数や地下鉄駅トイレの多目的トイレへの改修件数など、各指標で目標を達成した。成果である市バス・地下鉄の旅客数も前年度を上回ったほか、ノンステップバス等低床型車両の導入率、多目的トイレへの改修率も目標を達していることから、総合評価は「A」とする。

### 【考 察】

- 全760両中、ノンステップバス等低床型車両の導入車両数は累計で561両となった。うち、ノンステップバスは534両であり、導入率は、国の目標値である30%を大きく上回る、70.3%となった。
- 市バス・地下鉄をすべてのお客様にご利用いただきやすい施設へと改良することは、お客様の安全性・利便性の向上につながるものである。

### 【今後の方向性】

- 市バスのバリアフリー化推進のため、継続してノンステップバス等低床型車両の導入拡大とそれに合わせた停留所施設の改善を行うとともに、地下鉄については、引き続き多目的トイレへの改修など、更なるバリアフリー化の実現を図る。

## 2.4 環境保全対策の推進

…事業活動に伴う環境負荷を少なくするため、バス車両の低公害車及び低燃費車への代替を行うとともに、交通局本庁舎において、ISO14001の認証取得に向け取り組むことにより、大気汚染や温暖化等を抑制し、地球環境を保全する活動の先導的役割を担う。

この事業を進めるための取組	①天然ガスバスの導入促進 ②アイドリングストップバスの導入促進 ③バイオディーゼル燃料「みやこ・めぐるオイル」の使用拡大 ④ISO14001の認証取得			
活動量指標 1	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	総合評価          <b>A</b>
低公害車の導入車両数	3両 (天然ガスバス)	3両	100%	
活動量指標 2	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	
低燃費車の導入車両数	80両 (アイドリングストップバス)	85両	106%	
活動量指標 3	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	
バイオディーゼル燃料使用車両数	93両	93両	100%	
活動量指標 4	活動量目標	活動量実績値	活動量達成度	
ISO14001 認証取得に向けた取組	ISO14001 認証取得	取得	100%	
成果指標	成果目標	成果実績値	成果達成度	
低公害車・低燃費車導入によるCO <sub>2</sub> 削減量	426.7 t 削減	451.7 t 削減	106%	

成果	達成	B	<b>A</b>
	未達成	C	B
	未達成	達成	
	活動量		

活動量については、低公害車、低燃費車の導入車両数や、バイオディーゼル燃料使用車両数など、各指標で目標を達成している。また、成果である低公害車・低燃費車導入によるCO<sub>2</sub>削減量も目標を達成したことから、総合評価は「A」とする。

### 【考 察】

- 全760両中、低公害車（天然ガスバス）は累計で39両、低燃費車（アイドリングストップバス）は累計で564両となった。
- 市バス車両の低公害化の推進は、地球温暖化の防止につながると同時に、市民の環境保全意識の向上にも寄与するものである。
- ISO14001の認証については、平成19年8月29日に交通局本庁舎において取得することができた。

### 【今後の方向性】

- 今後も取組を着実に推進するとともに、更に高い効果を期待できる新たな技術が普及した際には、これを取り入れていくことが必要である。
- ISO14001に基づき、引き続き環境に配慮した取組を実施していく。

## 平成20年度 京都市交通事業事務事業評価

平成20年11月発行

☆この評価に関するご意見，お問い合わせ先

**京都市交通局 企画総務部企画課**

〒616-8104 京都市右京区太秦下刑部町12

TEL 075-863-5056 FAX 075-863-5069

URL <http://www.city.kyoto.lg.jp/kotsu/>